

## 令和元年度 第1回北区地域包括ケアシステム推進会議 議事録

1、 日時 令和元年度(2019年度)9月3日(火)14時~16時

2、 場所 北区役所2階第1~第4会議室

3、 出席委員(敬称略) 平田貴文、木村浩美、井手博美、野尻晋一、藤本雅士、宮原栄志、松本泰子、吉永京子、竹熊千晶、境俊次、津地尚文、秋吉展明、長谷川盟子、後藤加菜、松本健一、加世田まゆ、下出さゆり、森口英臣、牛島太一郎

4、 会長・副会長選出

委員の互選により会長に竹熊委員、会長の指名により副会長に宮本委員、津地委員を選任。

5、 報告

(1) 事務局説明「北区地域包括ケアシステム推進会議のこれまで取り組みと推進方針について」

約半数の委員の交代があったため、地域包括ケアシステムについて、北区の推進方針及び推進体制、発足以来2年間の取り組みについて説明し、共有を図った。

概要：北区の「優先課題」である「高齢者の見守り」「認知症の人・その家族への支援」の二つの実現に向け「北区地域包括ケアシステム推進方針」の中で「3つの取り組み方針」として 方針1：高齢者等が安心して過ごせる「仕組みづくり」 方針2：高齢者等と一緒に楽しく過ごせる「場づくり」 方針3：高齢者等を地域みんなで支える「人づくり」を決めた。

- ・資料1-1「北区地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み」
- ・資料1-2「北区地域包括ケアシステム構築推進体制図」
- ・「北区地域包括ケアシステム推進方針」

(2) 各ささえりあ圏域における具体的な取組事例について

北区の推進方針の「3つの取り組み方針」に基づいた、ささえりあ圏域での取り組みの一部を、各ささえりあから報告。(別添パワーポイント資料)

- ・ささえりあ植木・・・大和地区生活支援サポートセンターの取り組み：仕組みづくり
- ・ささえりあ北部・・・家族介護者のつどい、ささえあい交流会：場づくり
- ・ささえりあ清水-高平・・・運動強化型サロン「かたんなっせ」：場づくり
- ・ささえりあ新地・・・地域支え合い通所サービス「麻生田5町内地域交流かたらん会」：場づくり
- ・ささえりあ武蔵塚・・・認知症サポーター養成講座、認知症徘徊者声掛け模擬訓練：人づくり

6、 議事

(1) 今後の取り組みについて 事務局説明：優先課題である「高齢者の見守り」「認知症の人・その家族への支援」に対して、前年度までに各委員やその母体団体から寄せられている「実施していること、できそうなこと」「協力していること、協力できそうなこと」を説明。

- ・資料1-3「北区で優先して取り組み課題(1) 高齢者の見守り」
- ・資料1-4「北区で優先して取り組み課題(2) 認知症の人・その家族への支援」

#### 【意見交換】各委員から出された意見の概要

各委員からは、それぞれの現状や抱える問題や活動について、発言があり、情報交換が行われた。

◎植木地区は地域間格差という課題がある。大和地区は住宅地で歩いて活動に参加できるが、山本校区は高齢化率が40%超え、高齢者が高齢者を介護している。校区が広く何をするにも車が必要であり、地域間のつながりづくりや活動への参加、買い物支援などの課題がある。

◎学校やPTA、自治会長などが参加しまちづくり委員会を開催。自分たちで課題を見つけ、協力し解決法を話し合う。コミセンイベントや健康まつり、こどもまつり等を実施。女性の会を結成し、イベントでの食事提供や男性料理教室の講師など活発に活動。日頃の活動が健康につながる。

◎関係機関とともに支え合い交流会を開催。高齢者の増加、老々介護、認知症等の問題を検討。地域で多様な人間関係を持つことが心身に影響する。地域が広いので身近な場所で住民が参加できる町内毎にサロンを増やし、体、頭、心の健康をキャッチフレーズに互助に結び付く高齢者対策に取り組んでいる。

◎健康まちづくり活動の中で、校区の課題を出し合い、スローガンを決め、活動を展開している。

認知症、憩の家の有効活動などに取り組んでいる。

高齢化、少子化がある中、若い世代の考え方が多様化し、自治会活動に協力を得るのに苦慮する。

◎校区の人口が減少しており、老々介護の家庭が増えている。介護が長引けば介護者が入院し、認知症の人は施設の受け入れ先が見つからない。地域の支援者が、支援対象者のケアプランの内容がわからないことも課題。元気高齢者は下校の見守り活動を行っている。

◎認知症サポーター養成講座を定期的で開催。認知症のキッズサポーター養成講座は今年で2回目、認知症徘徊者声掛け模擬訓練を校区として初めて開催する。

◎一人ぐらしや高齢世帯では、家事支援やゴミ出し、掃除、調理、不安解消の話し相手、外出支援(病院、買い物)、軽作業(電球取り換え)等のちょっとしたサポートが必要。取組を期待するが誰がするか次世代の育成が課題。孤独死防止、高齢者の自立の援助も課題。

◎本日出た意見はケアマネ協議会としても把握している。介護保険制度の説明や啓発など、課題に上がったものに取り組みたい。◎要介護状態の方に接することが多い。地域の情報が入らず、地域資源の立ち上がるスピードが早く把握しきれない。理学療法士協会として地域活動に貢献しているが結果のフィードバックはできていない。

◎施設に勤務している立場では、地域の課題や活動について知る機会がないが在宅にも貢献したい。

◎訪問看護ステーションで事業所と災害時の支援のシュミレーションを基にした訓練に取り組み、今年は住民と一緒に実施。熊本地震では支援1～要介護2の方に避難所に行けない、避難所での骨折や褥瘡、感染症や廃用性等の二次災害が課題だった。どこかで災害時支援のモデルができればいい。

◎県医師会では、緊急時に患者情報を医療機関間で活用できるようメディカルネットワークの構築に取り組んでいる。交通の便が悪い地域は医療福祉の提供密度が低くなり医療格差を感じる。

◎地域のささえあいも大事であるが、それだけではどうしようもない問題がある。民生委員として、困っている人をどこにどう繋ぐかを今後考えていかなければならない。

◎認知症電話相談を行うなかで、家族の悩みの深さ、老々介護の実態に触れ、高齢にならないとわからないこと、話してみないと分らないことを感じ、対象者に余裕をもったやさしい対応を望む。

◎ささえ手側が必要と思っても、受け手側が感じている必要性が同じとは限らず、受け手側の声も聴く必要がある。新しい支援制度がどんどんできているが、対象者への周知も課題。

◎高齢になった親から、障がい者の相談が増えている。地域で暮らすには24時間サービスが必要な場合もあり、ヘルパー不足が死活問題。地域づくりの面では、災害時の支援に関する講座を実施。

(2) 熊本市地域包括ケアシステム推進会議委員の選出について

・竹熊会長を委員として選出

(3) その他次回開催について：令和2年1月末開催予定

7、閉会